



青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相をいうのだ。  
 年を重ねただけで人は老いない。  
 理想を失う時に初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。  
 人は信念と共に若く、人は自信と共に若く、希望ある限り若く—

「青春」原作 サミル・ウルマン 邦訳 岡田義夫 より抜粋

# 特集 Old Rookie

— オールド・ルーキー 人生は、いつだって挑戦だ — 特集 9ページまで —

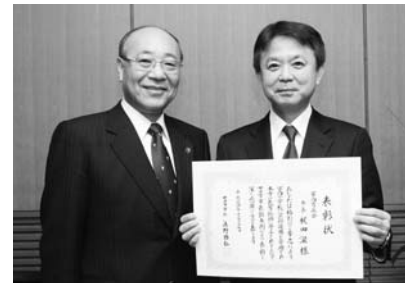
今や人生80年時代と言われ、世界一の長寿社会となった日本。退職後も、自分の能力を最大限に活用し、それまでの人生とは全く違う、二つのキャリアを持つことも十分可能です。セカンドライフ（第二の人生）は、本人が楽しみ、活力を得ながら、地域や社会も元気にできるステージ。今月は、とっておきの「生きがい」を見つけ、輝いている人たちを紹介します。

写真は、佐伯観光ボランティアガイドの会代表の下橋弘信さん（68歳・峠）。「誰もが地域を愛しています。現在に残された地域の宝を風化させずに次の世代に残していきたい」と話す。佐伯地域に現存する400年以上前の石畳が残る古道「津和野街道」のボランティアガイドとして活躍している。

宮内小学校に空調機器を寄附

## 故山口宝一さんの意志継ぎ、宮内育英会が小学校に寄附

宮内小学校理科室に空調機器を寄附された宮内育英会が、廿日市市表彰条例に基づき善行表彰を受けられました。（12月27日付け）  
 宮内育英会は、同校卒業生の故山口宝一さんが「親子三代がお世話になった宮内小学校のために尽くしたい」と、850万円の有価証券を寄附したことから昭和41年に発足。会ではこれを基金として運用し、毎年施設整備のための寄附などに充てているそうです。



宮内育英会会長の梶田滋さん（写真右）は、「快適な環境で勉学に励んでほしいです」と話してくれました。

宮島歴史民俗資料館企画展示「平清盛館」

## オープンから1年を目前に 来館者20万人突破

宮島歴史民俗資料館の企画展示「平清盛館」が1月7日に来館者20万人を突破しました。20万人目となった増田さん一家には和田観光課長から大杓子などの記念品が手渡されました。  
 「ドラマによる宣伝効果もあり、宮島に初めて来るという人を増やすことができました」と和田観光課長。「平清盛館」は1月14日に一度閉館後、4月6日(土)に再び宮島歴史民俗資料館として開館します。



増田康成さん（左から4番目）は「20万人目の節目に来館することができ、いい思い出になりました」と話してくれました。

宮島の来島者数400万人達成

## 過去最多の 来島者数を大幅更新

昨年1年間の宮島来島者数が400万人を達成したことを記念し、12月27日に宮島棧橋ターミナルで記念のイベントが行われました。  
 昨年放送された大河ドラマ「平清盛」の影響もあり、平成23年の363万人を上回る過去最多の来島者を記録。この日、400万人目の来島者となった土肥さん一家に記念品の絵杓子などが贈られました。



土肥範子さんは「大河ドラマを見て宮島の景色を子どもたちに見せたいと思い訪れました。記憶に残る旅行になると思います」と話してくれました。

吉本興業の劇場看板受け取り式

## 伝統工芸品の広島仏壇の技、なんばグランド花月の看板に

12月19日、国指定の伝統工芸品である広島仏壇の技を生かし、吉本興業の劇場出演者の名前を刻んだ看板の受け取り式が、市役所市民ホールで行われました。  
 看板を手掛けたのは市内在住で伝統工芸士の岩本修造さん。「一人一人の顔を思い浮かべながら作成しました」とあいさつ。  
 劇場の改装に合わせて全国の職人から看板を募る企画で、3月まで劇場の入口に飾られます。



式には、平清盛に扮（ふん）した坂田利夫さんも登場。自身の看板を見て、「宝物が増えました。ありがとうございました」と持ちネタで会場を沸かせました。

地御前漁港焼きカキ施設がオープン

## 自分で焼いて味わう 地元地御前産のかき

1月10日、地御前漁協そばに焼きカキ施設がオープンしました。  
 地元産品を活用した新たな観光スポットにと、はつかいち観光協会が運営。かきめしや、かきぞうすいなどのほか、干物などの海産物も提供しています。  
 同協会の塩田ひとし会長は、「地元の産品を提供し、地元の雇用にもつながる施設。地御前かきの魅力をPRする場にしたいです」と話してくれました。



炭火焼き用のテーブルと約50席を揃えた店内。時間は10時30分～日没までで、今シーズンは3月まで営業します。

市と㈱イズミが、立地協定を締結

## 「(仮)ゆめタウン廿日市」 平成26年9月オープン予定

12月25日、廿日市市役所で市と㈱イズミが、「商業施設の立地に関する協定」を締結しました。  
 式典で眞野市長は、「市中心部にふさわしい商業施設。市内に大きな経済波及効果が期待できる」とあいさつ。山西社長は、「3世代で楽しめる施設を目指します」と話しました。㈱イズミは、市役所南側の下平良地区埋立地に、「(仮)ゆめタウン廿日市」の平成26年9月開業を目指します。



協定書に調印の後、固く手を結ぶ。左から㈱イズミ山西泰明社長、角田俊司市議会議長、眞野勝弘市長。